

# “ゆっくりかいどう”のみどころ

## 宿場町／城下町

### 大里宿



海峡に臨む豊かな歴史の地

大里宿は、関門海峡を挟んだ本州への渡海地として利用された宿場でした。かつて源氏から追われてきた平家一門が、この地に安徳天皇の御所を設けたことから地名がついたと伝えられます。



宿場を紹介した案内板や石碑がかつての宿場の様子を伺える。

昔の面影が残る街道の散策を楽しめる。



### 小倉城下



雅な文化に心おどる城下町

古くは豊前小倉藩の城下町である小倉。長崎街道をはじめ、九州諸街道の起点であり、人や物、情報が行き交う大きな宿場町でもありました。街角では今でも、今昔の賑やかな文化が出迎えます。



参勤交代往還路が通る百貨店の入口歩道に表示された碑。

伝統的な生活文化を味わえる施設となった小倉城庭園。



### 黒崎宿



賑わい残る筑前六宿の玄関

かつて黒崎は宿場町として陸・海路の要衝であり、九州西半の諸大名や多くの旅人が利用しました。当時の賑わいを示すように、町の随所に由緒ある寺社や、趣漂う史跡を見ることができます。



町の中には歴史にちなんだ様々な見どころが隠れている。

商店街では長崎街道に関連した催事が頻繁に行われる。



### 木屋瀬宿



歴史への追体験ができる町

木屋瀬宿は、江戸時代に筑前六宿とよばれた宿場町の一つです。問屋場跡や群屋跡、所々に残る「矢止め」と呼ばれるのこぎり型の家並みなど、今も当時の面影を偲ぶ建物が数多く残っています。



代表的な宿場建築の放送作家「伊馬春部」生家。一般公開されている。

神社や寺院が地域の祭りの舞台として今なお根付く。



## 宿場間の史跡・旧跡



① 西生寺

細川忠利のお茶屋敷浜御殿があったところで、当時の茶の湯の井戸が境内に残る。



② 黒崎城址

城山の山頂付近には、筑前国六端城の一つであった黒崎城の址が今も残る。



③ 三条の国境石

福岡藩が天保5年に建てた高さ3mを超える同藩最大規模の国境石。



④ 立場茶屋銀杏屋

かつては参勤交代の諸大名などの休憩場所に利用されていた。名は庭の大銀杏に由来。